

○ 東京都16年度予算案、トウキョウX生産拡大で初めて4,900万円の事業費を計上

東京都はこのほど発表した16年度都予算案のなかで、都が開発した系統「トウキョウX」の生産拡大に向けて事業費4,900万円を新たに盛り込んだ。農家への生産指導体制を強化することで、都内外での生産拡大と生産農家の新規参入を促す。海外から多くの外国人観光客が訪れているなか、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて東京生まれの食材への注目度が高まっており、都では目標の年間2万頭の出荷体制を目指してゆく。

「トウキョウX」は、輸入豚肉と差別化できる東京の地域特産豚肉を目指し、1990年から97年の7年間かけて東京都畜産試験場(現東京都農林水産振興財団)で開発された系統で、97年に系統造成豚「トウキョウX」として日本種豚登録協会から認定された。この系統の純血種同士との交配で生まれた子豚を生産管理マニュアルで育て、第5・第6肋骨の間を分割し肉質基準を満たしたもののだけにブランド「TOKYO X」の称号が与えられる。都産業労働局農林水産部によると、「トウキョウX」は肉質を追求して開発された結果、一般豚に比べて繁殖成績や発育成績はやや劣るといふ。現在は全国18戸の生産農家(うち都内6戸)から、年間8千頭弱の出荷があるものの、都では東京オリンピックに向けて「TOKYO X」を世界的なブランドに認知され

るよう生産振興に力を入れてゆく考え。

事業の柱は4つ。ひとつは、系統の維持と原種豚の生産・販売を行う同財団の青梅畜産センター(東京・青梅市)の職員を2人増員して「トウキョウX」の飼養管理に対する技術指導・支援体制を強化する。2つ目は、病原体の侵入防止のため、検査経費や清浄化に向けた予算増額など同センターの家畜衛生体制を強化してゆく。

3つ目は都内外の生産農家に対する技術指導。系統誕生初期から飼養している生産農家は長年の経験を通じて「トウキョウX」の特性を理解し、飼養技術レベルが上がっているものの、新規に飼いだめた都外の生産農家などは飼養経験が浅いため、センター職員が茨城県や宮城県など各地の生産現場へ訪問することでよりキメ細かな指導を行ってゆく。さらに、現地指導と併せて各地で新たな生産農家の“勧誘”も行う方針だ。

4つ目は、都内外の生産農家に対して、原種豚の購入費の助成(2分の1補助)やと畜場への出荷経費の助成(同)を行う。こうした技術指導の強化や助成を通じて既存農家の増頭や新規参入者を促し、ブランド全体としての生産拡大を図ってゆく方針だ。予算案は2月開会の都議会第1回定例会に提案される。

【乳雄去勢(B2、B3)パーツ相場】(25日) 荷動き変わらず、枝肉は今後も高値か

| 部位 | 価格 | 概況 | 部位 | 価格 | 概況 |
|-------|---------------|-----|---------------|---------------|-----|
| かたロース | 2,100 ~ 2,200 | 保合 | うちもも | 1,550 ~ 1,600 | 保合 |
| ウデ | 1,550 ~ 1,600 | 保合 | しんたま | 1,500円中心 | 弱保合 |
| かたバラ | 1,250 ~ 1,350 | 保合 | らんいち | 1,550 ~ 1,600 | 保合 |
| ヒレ | 4,800円中心 | 玉なし | そともも | 1,500円中心 | 弱保合 |
| ロース | 3,100 ~ 3,200 | 保合 | スネ | 1,250円中心 | 玉なし |
| ともバラ | 1,100円中心 | 弱保合 | (注)かたロースはネック付 | | |

【概況】ホルスの荷動きは相変わらず良くない。一方で出荷はさらに少なく、枝肉高の状況は改善されていない。全体的に引合いは鈍いなかで、一瞬、恵方巻き向けにバラに引き合いが入ったが短期間で終わる。今後はバレンタインのステーキ、ローストビーフ向けに、ロース、うちもも、ランプが期待されるも、実際の動きは出ていない。不需求期で安価な牛肉にシフトする時期であり、和牛の高値の一方で、ホルスが注目されることが考えられる。だが、出荷頭数が少なく仮に引き合いが入れば、相場がさらに高騰する懸念もある。積極的な販促が難しく、動くに動けないというジレンマを抱えている。